

平成 25 年度 第 2 回 水工学委員会議事録 (案)

日 時：平成 26 年 3 月 4 日 (火) 18:00~20:00

場 所：神戸大学六甲台第 2 キャンパス 工学部講義棟 LR 棟 LR201

出席者：朝位孝二、浅沼順、池田駿介、泉典洋、大石哲、大槻順郎 (二瓶泰雄代理)、大槻英樹、大本照憲、河村明、神田佳一、神田学、木村一郎 (清水康行代理)、小松利光、篠田成郎、清水義彦、杉原裕司、角哲也、関根正人、竹林洋史、立川康人 (幹事長)、田中規夫、田中昌宏、知花武佳 (編集幹事長)、戸田祐嗣、富永晃宏、中北英一、中嶋規行、中津川誠、西田修三、原田守博、藤田一郎、堀田哲夫、堀智晴、松田寛志、道奥康治 (委員長)、武藤裕則、横山勝英、渡辺勝利、渡邊康玄 (50 音順、敬称略)

議 題：

《報告事項》

1. 本年度の委員会活動報告 (道奥)

資料 1

資料に基づき、平成 25 年度の委員会活動が報告された。

2. 各部会、小委員会、関連委員会の活動報告及び活動計画

水文部会 (浅沼)、基礎水理部会 (大本)、環境水理部会 (角)、河川部会 (松田)

資料 2 - 1

常置小委員会：地球環境水理学 (中北)、東南アジア河川 (河村)、ISO/TC113 (堀田)、

流量観測高度化 (藤田)、水害対策 (堀)

資料 2 - 2

出版関連：水理公式集編集小委員会 (清水)、水理実験指導書編集小委員会 (藤田)、

論文編集委員会 (関根)

資料 2 - 3

関連委員会：海岸 (西田)、流域管理と地域計画の連携 (立川)、河川懇談会、CommonMP (立川)

資料 2 - 4

各部部长、小委員長等から平成 25 年度の活動報告と次年度計画が示された。特に、ISO/ITC 小委員会から平成 27 年に日本で ISO/ITC の国際会合が開催されることが紹介され、産学からの協力が要請された。また、水理公式集編集小委員会から平成 28 年 3 月に改訂版を発刊するまでのスケジュールが示され、協力が要請された。

3. 平成 26 年度水シンポジウム (長崎) について (角、立川)

資料 3

資料に基づき、水シンポジウム (長崎) の準備状況が報告された。

4. 水工学論文集の取り下げについて (知花)

協議事項でまとめて報告された (協議事項参照)。

5. 水工学委員会ホームページについて (朝位、立川)

資料 4

水工学委員会のホームページが順次更新され、夏期研修会や水シンポジウムの情報が更新されたことが報告された。

6. 「土木学会の 100 年」の原稿について (道奥)

水工学委員会担当分については、寶前委員長、篠田前幹事長により原稿が執筆されたことが紹介され

た。

7. 「強くしなやかな社会を実現するための防災・減災等に関する研究委員会（仮称）、強靱化検討委員会（略称）」について（道奥、中北）

会長の先導により表記委員会が構成されており、水工学分野からの積極的に貢献していくことが紹介された。

8. 平成 27 年度水工学に関する夏期研修会について（立川） 資料 5

平成 27 年度の研修会は、ローテーション通りならば東京での開催となり、海岸工学委員会の担当予定となることが報告された。

9. 平成 27 年度第 60 回水工学講演会について（立川） 資料 6

平成 26 年度の早稲田大学の次の講演会の候補地の検討を開始したことが報告された。

《協議事項》

1. 平成 27 年度水シンポジウムについて（立川） 資料 7

福井県から開催希望の申し出があったことが報告され、承認された。

2. 平成 26 年度水工学に関する夏期研修会（九州工業大学）について（杉原） 資料 8

プログラム案が示され、テーマ案の「水害」を「水・土砂災害」とし「近年の大規模水・土砂災害と予測・対策技術の高度化」とすることが承認された。

3. 平成 26 年度第 59 回水工学講演会の開催（早稲田大学、H27.3.10-12）について（関根） 資料 9

例年の開催スケジュールである 3 月第 1 週は入試の予備日となる可能性が高いため、3 月 10 日から 12 日に開催することが承認された。なお、ほぼ問題なく開催できる予定であるが、最終的に日程が確定となるのが平成 27 年の 1 月であることが報告された。

4. 土木学会論文集 B 部門合同編集小委員会の次期委員推薦について（立川） 資料 1 0

平成 26 年度から 27 年度の編集委員の推薦が承認された。

5. 平成 26 年度全国大会 研究討論会について（立川） 資料 1 1

平成 25 年の水害を主題とする討論会と CommonMP の普及に関する討論会の二つが提案されたことが報告された。委員会推薦が原則一つとなっているため、水害関連を 1 位、CommonMP 関連を 2 位として両方とも学会に提案することが承認された。

6. 水工学論文集に関する報告・協議事項（知花） 資料 1 2、1 3、1 4
（報告事項）

- 1) J-Stage 掲載済み論文の取り下げ依頼が著者からあり、J-Stage から論文を取り下げる手続きをとった。その経緯が報告された。
- 2) 論文集の USB 化が費用の関係で見送られたことが報告された。
- 3) 今回の論文集編集の反省に基づき、編集方針が再確認された。
- 4) 共著者として名前を挙げられている人が、その論文が投稿されていることを知らず、最終的に投

稿取り下げとなるケースが発生した。防止策として、次年度以降、投稿段階で「全共著者が投稿に同意していること」を確認するチェックボックスを投稿ホームページに追加することとなった。合わせて二重投稿をしていないことを確認するチェックボックスも作成することとした。また、プログラムのセッション名が必ずしも適切でない場合があったため、最終プログラム案は編集委員会全員に回覧して確認することとした。

- 5) 編集過程のミスによりプログラムのタイトルが誤っている論文がいくつかあり、執行部から謝罪があった。

(協議事項)

- 1) 水工学講演会開催前年の土木学会論文集 No. 1 から 3 (水工学講演会開催前年の 1 月から 12 月) に掲載された論文について、水工学講演会で発表する権利を与えることが承認された。この場合の講演者は水工学講演会論文集での講演と重複しても構わないとする。
- 2) 今回の論文集編集の反省に基づき、図表の転載、著者名の変更、論文題目の変更に関して、投稿要領により詳細な記述を加えること提案され、承認された。
- 3) 論文投稿時に選択するキーワードを修正することが提案され、修正作業を開始することが承認された。

7. ISRS2013 実行委員会からの寄付について (道奥、角)

2013 年京都で開催された ISRS2013 の決算後の余剰金を土木学会学術文化事業へ寄付したいという申し入れが ISRS2013 実行委員会よりあった。寄付金の趣旨は、水工学発展のための有効利用であるため、今後、学会の手続きを経た後にその内容を確認した上で、同寄付金の活用方法を水工学委員会が検討することとなった。

以上